

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 5年 3月 1日

事業所名 放課後等デイサービス ラディアントスキップ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動室、学習室を別に設けている。	活動室はスペースが広く確保されているが、学習室に療育の道具が置かれ、収納に関して整備していきたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		10名の利用者に対し4名～5名の職員を配置している。	毎日必ず4名以上の職員を配置しているので適切である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		配慮が必要な利用者さんには職員がついている。	玄関には踏み台を設け、室内は床の修繕も終わり段差もないので適切にである。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		朝のミーティングと夕方の振り返りで行っている。	朝、夕のミーティングだけでなく、個別支援計画についても職員全員で確認をして共通理解している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に一回保護者アンケートを実施している。	アンケート結果だけでなく日常の保護者の方々の声を聞き新たな取り組みや活動など業務改善に努め、今後もさらなる改善に取り組みたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HP上で公開している。	保護者評価結果、自己評価結果を公表し、利用者さんや他の皆さんに周知していきたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	社内において他施設の職員による評価、アドバイスをを行っている。	第三者による外部評価について他社や他事業所からも第三者評価について情報を得て、なんとか実現生かしていきたい。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修、社内研修に積極的に参加している。	今年度はリモートによる研修が増えたが積極的に参加してきたので研修で学んだことを全員で学んでいきたい。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		契約時だけでなく定期的な再アセスメントにも力を入れてきた。	長く利用されている利用者さんの再アセスメントを積極的に行い、その情報を全職員で周知・共有し、そのうえで個別支援計画の作成や日々の支援の工夫に生かしていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化されたアセスメントツールをもとに独自のものを工夫している。	アセスメントや支援計画作成を進めるなか、さらに改良を進め、より良いもの、支援に生きるものになるように工夫していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		施設長、児発管を中心にプログラムの立案を行っている。	全職員の意見を取り入れながらプログラムの立案を行い、より良い支援が出来るように努めていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動がマンネリ化しないように工夫している。	毎月固定で行う活動もあるが、マンネリ化しないように手作りの教材を生かしながら工夫しているので、さらに工夫を重ねたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日、休日を意識して活動内容を設定している。	五領域を意識しながら平日は運動、生活、学習の3つの柱で療育活動を行い、休日は食育、社会見学などを取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動、集団活動を常に意識して計画を作成し支援を行っている。	集団での活動が苦手な子もいる中で、集団活動の中の個の目標をしっかりと定め、それを達成するための手立てを十分に検討し日々の療育に向かっていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝のミーティングで支援の内容や役割分担を確認している。	毎朝のミーティングは今後も大切にしていきたい。全体の目標と個の目標、職員の役割分担、個別の支援の在り方などきちんと確認して療育に向かいたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		一日の終わりに必ずミーティングを行い、振り返りを行っている。	活動の振り返りをして気付いたことを共有しているが、その日休みだった職員にも漏れることなく伝えていきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳や活動日誌に記録を取っている。	個別の連絡帳は職員で分担して記入しているが、連絡帳には職員全員が目を通して共有できるように徹底したい。
	18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		節目に再アセスメントを行っている。	保護者さん、相談員さんと連絡を取りながら節目には再アセスメントを行い、その後の療育活動に生かしていきたい。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		五領域を意識しながら活動を組んでいる。	ガイドライン総則の基本活動を常に意識して活動計画を作成し、個の成長、自立をめざして支援を行ってきたい。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管を中心に複数の職員が参加している。	サービス担当者会議には、基本的に児発管とその子に最も精通した職員の2名の参加で向かいたい。一人の利用者さんを偏った見方でなく多面的に見て話をしたいと考えている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		各学校への送迎時に、学校での様子や特別な連絡事項がないか担任の先生から情報を得ている。	各学校の年間計画や行事予定はHPから情報を得ている。予定変更などの情報を得たときには、学校に直接確認するようにしている。利用者の翌月の施設利用予定(お迎えの予定)は、月末までには各学校にお知らせしている。今後も各学校との正確な連絡調整に心がけていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		保護者を通して主治医からの指示、配慮事項等の情報を得ている。	食物アレルギーやてんかん発作等の情報を随時把握しながら活動していきたい。お出かけ時不測の事態が起きたときの対応など、事前に十分確認したい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		相談員さんを通じて情報共有をしている。	必要に応じてスマイルブック(成長の記録、療育・特別支援教育の記録簿)をお借りして、障がいや療育・特別支援教育に関する情報を得ている。今後も保護者様の理解のもと有効に活用していきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		弊社生活介護「スケッチ」と連携を密にし、情報提供を心がけている	当施設から高等部を卒業する生徒の何人かは弊社生活介護「スケッチ」を利用されている。生活介護スケッチの利用にあたり個々に伝えなければならないことを正確に伝えられるよう意識している。今後他施設を利用する場合でも同様に情報を提供していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援センター等の専門機関が行う研修会等に行き参加している。	児童発達支援センター等の専門機関や大垣市障がい福祉課・子育て支援課が主催する様々な研修会に積極的に参加するよう心がけている。こうした研修の機会に個人的にアドバイスを求めることも意識していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		障害のない子どもとの交流、活動ができないか職員間で話し合っている。	何とか障がいのない子どもたちと交流の機会が持たないかと考えるが現在までのところ実現できていない。今後も考えていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会参加の案内をいただいたときには必ず参加している	今後も積極的に参加したいと考えている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に保護者に伝え合い共通理解を図っている。	連絡帳でその日の利用者さんの様子をていねいに伝え、同時に送迎時、その日の姿を言葉で伝えることで子どもの姿や療育について共通理解を図ってきたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者の困りごとなども聞き、支援を行っている。	出来る限り話を聞き、子育てや障がいについて保護者に対して積極的にアドバイスをしていきたい。また保護者に的確なアドバイスができるよう研修を重ねたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際、十分時間をかけて説明している	報酬改定等により利用者負担額に変更がある場合には、その都度丁寧に説明していきたい。また、施設の重要事項の変更なども必要に応じてていねいに説明していきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者の悩みや相談には出来る限り助言を行っている。	いろいろな相談に対し、専門的な知識・経験や、職員自身の子育ての経験をもとに、保護者に寄り添い助言やアドバイスを続けていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		療育参観を年に1~2回行っている。	今年度はコロナの影響で保護者会は開催できていませんが、施設での療育参観も再開して保護者同士の連携も深めていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情等があった時にはその情報を全職員に伝え対応について考えることを徹底している。	苦情等があった時には、その情報を全職員に伝え対応について考えることを徹底している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に1回の新聞や毎日にブログ、行事時の新聞を発行している。	毎月1回発行の新聞、週に1~2回くらいのペースで更新しているHP上の活動ブログ、これを今後も継続していきたい。また、その内容もさらに充実させていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の取り扱いには十分注意している。	今後も個人情報の管理に細心の注意を払っていきたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		毎日の連絡帳ではわかりやすい表現で伝えるよう意識している	毎日の連絡帳、月に一回発行の新聞、いずれも読み手にとってわかりやすい表現や言葉を意識していきたい
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年に1~2回地域清掃ボランティア活動を行っている。	事業所として町内会に所属し、年に1~2回清掃ボランティア活動を行っているが、今後より良い活動の在り方について検討し実践していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		全ての対応マニュアルを整えているが、保護者に対して周知という点ではまだ徹底できていない。新聞・HPを利用し利用者、保護者への周知に力を入れていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回地震火災避難訓練と水難避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		全職員対象の虐待防止研修会を実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		現在その対象となるような利用者はいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメントで食物アレルギーについて確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット、事故報告書を作成し共有している。
					訓練が形だけに終わらないよう、子どもたちにも意味を理解させ真剣な態度で行わせたい。
					今後も社員研修の一環として社内の虐待防止研修会を実施していきたい。県主催の研修など社外での研修にも積極的に参加していきたい。
					今後やむを得ず身体拘束が必要になる場合には、きちんと手順を踏み、その記録をきちんと残し、さらに日々の様子をきちんと保護者に伝えることを意識して進めていきたい。
					食物アレルギーとてんかん発作についてのデータを日々の療育活動に確実に生かせるよう努力していく。
					ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し事業所内で常に話題にし共有している。同時に管理職に報告している。今後もこの形を継続していく。